地域の課題
研究者も考えます

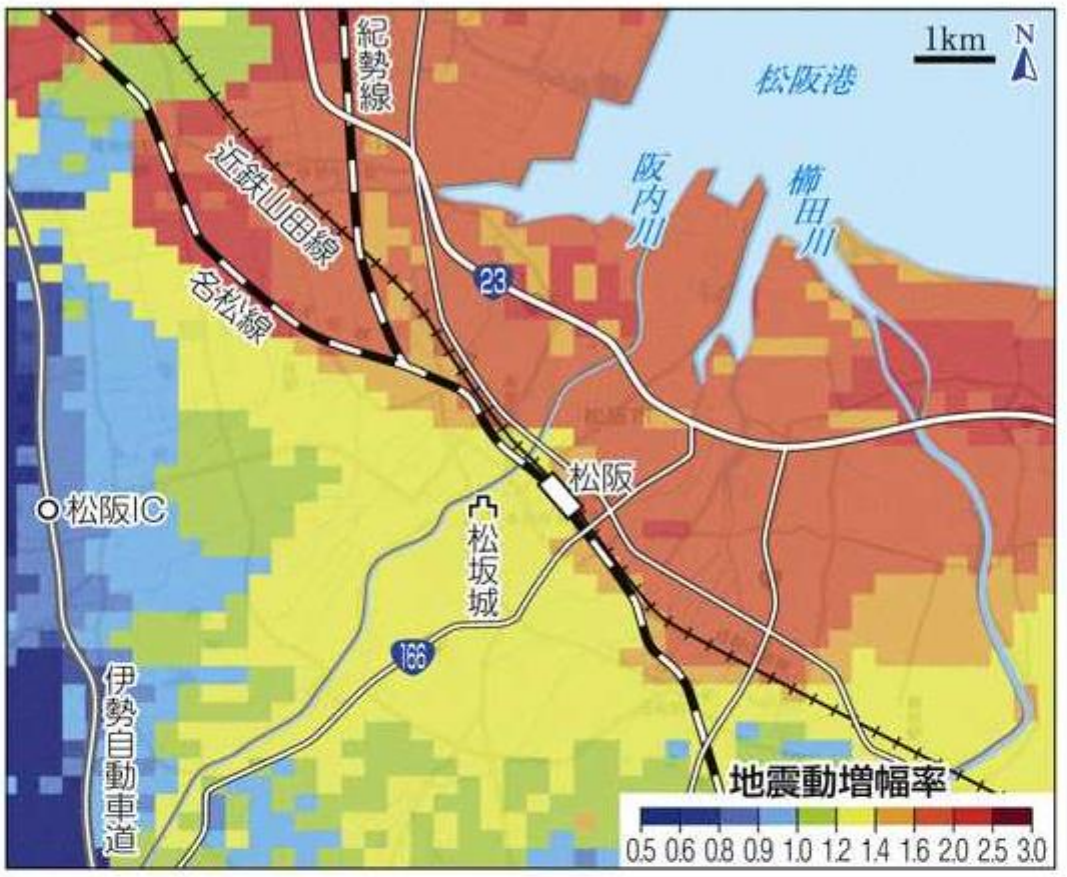
㉓

終わりに

環境学研究科長　山岡　耕春教授

連載をしめくくるにあたり、筆者の専門である地震の観点から松阪市の地震リスクについて考えてみたい。

地震リスクは、震源からの距離だけでなく、地盤の揺れやすさに大きく影響される。防災科学技術研究所が運営するWebサイトの「地震ハザードステーション」では、揺れやすさの地図を公開している。その図を松阪発展の歴史と合わせて考えると興味深い。



松阪市中心付近の地盤の揺れやすさを示す地図（地震ハザードステーションの図に、松阪駅とJR線、近鉄線を追加した）

防災に役立つ 街発展の歴史

松阪市は、蒲生氏郷が築いた松坂城を中心に発展してきた。市歴史民俗資料館の展示にある江戸時代初期の絵図には、城の北東から南東側に街が描かれている。その後、昭和初期の名所交通鳥瞰（ちょうかん）図では、主に松阪駅よりも南西側に街が広がって描かれている。

このような昔の地図と、地震の揺れやすさマップを比較すると、昔の市街地は相対的に揺れにくい場所にあり、一方で松阪駅よりも海側は揺れやすい地域になっていることがわかる。これらの地域の多くは、津波ハザードマップでも津波浸水域に含まれている。

人々は経験的に自然災害が少なく、できるだけ安全な地域に住む。周囲よりも標高が高く水害を受けにくい場所や、地盤がしっかりとして家が建てやすい場所が経験的に選ばれ、街が発展してきた。

近年は、条件の悪い場所にも家が建つようになってきたが、地盤の揺れやすさは変わらず、地震ではそのような場所の被害が大きくなる。街が時間的・空間的にどのように発展してきたかに思いをはせ、防災にも役立ててほしい。

（終わり）

安全な地域 経験的選択

名古屋大学持続的共発展教育研究センター